

(様式3)

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和7年度 富山高等学校アクションプラン ―1―		
重点項目	学習活動	
重点課題	「自学・自楽する18歳へ」と、学びと成長のウェルビーイングの向上	
現 状	本校では、「発展的未来に貢献する人間の育成」を目指し、進路実現と、卒業後のさらなる飛躍の土台となる資質能力の育成につながる教育を展開している。学習活動においては、授業の充実を図るとともに、生徒の自主的な学習が大切となってくる。 「授業」に関しては、10年以上にわたり「学び合い」「ICT活用」など、手法や授業展開の工夫に重点を置いて取り組み、成果をあげてきた。今後はさらに、生徒自身がその授業に「受け手」ではなく「学びの創造者」としての意識をもって臨むことができるか、それをいかに促すことができるかを重点課題とし、生徒の一層の能力伸長につなげたい。 また、生徒にとって学びと成長のウェルビーイングの向上のため、富山高校ではぐくむ10の力のうち、特に「教養(既存の知識を組み合わせ新しい知見を得て、未来を予測する)」、「生活マネジメント(目標を見据えて自己の行動、生活マネジメントをする)」を伸長させるための教育活動を行う必要がある。今までも、生徒面接などを行っているが、最終的に生徒が自ら考えて行動ができるように指導を工夫する必要がある。	
達成目標	1 「授業」について:主体性を育む授業の実施と、授業を活かす生徒の意識の確立 ①生徒による授業参加の自己評価 「学び合い」や「教え合い」、「振り返り」などの活動を自らの学びの場として活かすことができた生徒の割合が90%以上となること。 ②授業に関わる事前/事後課題への取り組み その授業を効果的に受講するために課された課題への取り組みが90%以上となること。 1、2ともに、9月、1月に実施する学習生活実態調査時に生徒アンケートを実施する。各項目が、3年後に95%以上となることを目指す。	2 学びと成長のウェルビーイングの向上:富山高校で育む10の力 ①教養 ループリックの目標基準が3以上となる生徒の割合が65%以上となること。 ②生活マネジメント ループリックの目標基準が3以上となる生徒の割合が60%以上となること。
方 策	1 教師の「授業構想」を基本としながらも、授業力の向上を図るとともに、生徒間、生徒教師間の対話的な学びを促進する。 2 担任を中心とした個別面談を年間7回程度以上実施し、特に、学習に困難を感じている生徒や工夫が必要な生徒に対しては、生徒に寄り添いながら、ウェルビーイングの向上が図れるように、対話的に指導を行う。 3 進路学習係と担任・教科担当者との連携において、生徒が家庭学習に主体的に取り組める適正な課題の質および量を設定し、細かく調整するようにする。また、その際には授業と学習課題の有機的な結びつきを高めるとともに、実態としての個別最適化が実現されるように工夫する。 4 働き方改革の推進するとともに、教務規程や成績評価の業務の見直しを通して、教員自身が「自学・自楽」し、ウェルビーイングを体現する生き方、学び方の価値観を再構築する時間を創出する。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和7年度 富山高等学校アクションプラン-2-		
重点項目	学校生活	
重点課題	基本的生活習慣の改善	健康的な環境づくりに努める知識や能力の向上
現 状	・生徒手帳の改訂により服装および頭髪については「清潔端正」のみを示している。従来行っていた頭髪指導をなくしたが、服装・頭髪に乱れのある生徒も若干名いる。 ・『生活あつての学習』を掲げ、規則正しい生活習慣の確立をめざしている。しかし、スマートフォン等を長時間使用し、学習や睡眠に支障をきたす生徒も見受けられる。 ・自転車通学生が多く、推奨されているヘルメットの着用は少しずつ定着しているが、イヤホン装着運転をしている生徒も見られるため、意識改善をさせる指導をしていく必要がある。	・日常の清掃及び月例大掃除の指導を通して、環境を整えることの意義や協力の大切さ、効率的な時間の使い方等を理解し始めた生徒が増加傾向にあるが、以下のような課題がある。 ・積極的に掃除をしたいが、掃除担当メンバーでどのように掃除をしたら効率よく綺麗に掃除ができるのかの共通理解ができていない。 ・手際よく掃除を行うための道具の整備が整っていない。
達成目標	1 服装・頭髪についてのルールを主体的に判断させるために、生徒会と教職員の対話の機会を年に2回以上設ける。 2 スマートフォン使用時間(学習活動・連絡利用以外)の短縮等、自己の行動、生活をマネジメントする。また、個人情報のSNSへの安易な書き込み、著作権法違反、他への中傷記載などをなくす。 3 交通ルール・交通マナーが遵守されるよう、自転車の安全運転については特に重点的に指導し、ヘルメット着用率を高めるために指導する。	・各掃除場所の掃除の手順書を作成し、それを基に掃除担当メンバーで効率よく綺麗にできる掃除方法の共通理解を持つ。 ・掃除ロッカーの整備をする。
方 策	1 年2回の生徒会と教員の対話や担任面接を通して、生徒が主体的に『清潔端正な服装・頭髪』について判断できるように促す。 2 スマートフォンは学習活動・生徒間連絡に不可欠なものとなりつつあるが、生徒に対して講演会を実施するほか、教員・保護者が連携して生徒の現状把握に努め指導を行う。 3 年間6回の校門指導・電停での校外指導など、さまざまな機会を通じて交通安全を啓蒙する。	・環境整備委員会を中心に各掃除場所の手順書を作成し、効率よく綺麗にできる掃除方法の共通理解を図る。 ・環境整備委員会を中心に各ロッカーに必要な掃除道具と数の一覧を作成し、誰もが掃除道具の把握ができる状態にする。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)